



CONTENTS

産学連携推進会議に出席して	1	会員企業紹介	5
「医・食・癒しの三重奏」を目指した鳥羽市、志摩市での取り組み	2	三重 T L O 技術移転および特許情報	6
四日市から文化の発信を	3	第 5 期営業報告	7, 8
研究室紹介	4	催し物行事案内	8

産学官連携推進会議 (産学官連携サミット) に出席して

株式会社三重TLO前社長 徳田正孝

日頃よりの(株)三重TLOの活動へのご理解・ご協力を心より御礼申し上げます。産学官連携さらに金融機関を巻き込んだ産学官金連携活動は、日本産業経済活動の活性化、豊かな地域社会構築の切り札のひとつとして極めて活発であり、また国からの(信じられないほど)数々の援助施策が企画・実施されていることは皆様ご承知のことと思います。

このような状況の中、本年も京都国際会議場で第5回産学官連携推進会議(サミット)が6月10日-11日の2日間にわたり開催されました。この会議は産学官連携の推進を担う第一線のリーダーや実務経験者などを対象に、具体的な課題について研究協議、情報交換、対話・交流・展示などの機会を設けることにより産学官連携の実質かつ着実な進展を図り、もって科学技術創造立国の実現に資する為のものです。

ご承知のように、この会議が開始されてからの5年間で、産学官連携活動は急速に浸透し、大学と企業などとの共同研究実施件数・特許件数、あるいは大学発ベンチャーの数など確実に増加しております。参加者は、例年のごとく3000人強にのぼり極めて充実した論議がなされました。三重TLO、三重大学、三重県庁からも数名ずつ出席し、これからの産学官連携のあり方・方向を勉強してきました。

今回のメインテーマは「イノベーションの加速に総力結集」でありました。これは、これまでの産学官連携活動の成果を踏まえ、新たな段階として「イノベーション」がキーワードに選ばれておりました。イノベーションとは何か? それぞれの立場・役割によりそれぞれ異なる意味を持つようです。難しいことを考えず新しいものに対するそれぞれの立場からの挑戦といったところでしょうか? ここで何度も出てきたのは、大学は真に新しい基礎研究をやるべしといった一見産学官連携活動と矛盾するような意見・ご注意でした。これは矛盾しません。大学が基礎研究をやってこそ産学官連携が成立するとのことです。そういった意味で日本の大学はまだまだであるとの大学人にとっては耳の痛い話でしたので印

象に残っております。

ここで行われました主な講演のタイトルを以下に列挙させていただきます。これらから何かを感じていただければと思います。

全体会議として イノベーションの加速に総力結集(松田岩夫:内閣府特命担当大臣)、イノベーションを創出するための産学官連携のあり方について(御手洗富士夫:日本経団連会長)、先端融合領域イノベーションの創出拠点の形成(科学技術振興調整費)の概要(清水勇:工業所有権情報・研修館理事長) 国を挙げてイノベーションシステムの構築を(吉川弘之:産業技術総合研究所理事長)

分科会として 第1分科会:国際的産学官連携の新展開(国際的イノベーション創出拠点形成を目指して、新たな国際的産学官連携を目指して)、第2分科会:地域・中小企業における産学官連携の新展開(福井県の産学官成功事例、北海道における産学官連携成功・失敗事例、東北における産学官連携とコミュニティ、地域における産学官連携における強みと弱み)、第3分科会:イノベーションの創出に向けた産学官連携の推進と人材の育成(イノベーションを創出するクラスターと人材育成のあり方、イノベーションによる地域活性化を促進する産学官連携は? 地域再生に資する産学官連携推進人材の育成・確保、第4分科会:知的財産を軸とする産学官連携の新展開(産学官連携の現状と課題-知的財産の見地から-)、大学、TLOにおける知的財産戦略の進展と課題、大学知財機能の強化策、産学官連携における弁理士の役割と貢献、戦略的産学官連携のすすめ、第5分科会:データから見る産学官連携の現状と課題(制度変革期における産学官連携に関する実証的研究) 産学技術移転の現状、産学連携におけるハイテクベンチャーの重要性、国立大学の産学連携と公的研究活動などの産業への寄与、米国の多様な産学連携から学ぶべきこと。このほか当会議では4件のワークショップ、パネル展示・ショートプレゼンテーション、などが併設されておりました。

(ご連絡)

平成18年6月30日の株主総会において、徳田正孝に代わり、代表取締役社長に円城寺英夫が就任いたしました。

「医・食・癒しの三重奏」を目指した鳥羽市、志摩市での取り組み

産学官連携コーディネータ 松井 純

鳥羽市との繋がり

鳥羽市とはH16年3月に相互友好協力協定が結ばれた。鳥羽市は人口の20%以上が離島住民であることから、離島の産業振興が最重要課題であった。そこでH16、17年度2カ年で4島の「郷土料理の調査研究」(教育学部 成田美代先生)、「歩行道の調査研究」(教育学部 杉田正明先生)を行った。

医学部と連携する

4島での調査研究を活かし、「- 血糖値が気になる人のために - 島人がもてなすウエルネスの旅」が行われた。ツアーのテーマは「良く動き、美味しいものを食べ、血糖値を下げる」である。「歩き方講習会」(教育学部 杉田正明先生)「糖尿病の講義」(医学部附属病院内科 住田安弘先生)「栄養指導」(医学部附属病院栄養指導管理室 岩田加壽子先生)などが高く評価された。

H18年度は、糖尿病に対する心理的療法や運動療法などを含めた新しい取り組みを企画している。

志摩市との繋がり

志摩市とはH17年6月に相互友好協力協定が結ばれた。これまで人文学部が旧阿児町と協定を結ぶなど、積極的に交流の可能性を探ってきた。H17年度から、三重大学文化フォーラムが6回シリーズで開催されている。また、志摩市パークゴルフ場において教育学部との共同研究が行われている。

英虞湾では、以前から「英虞湾再生プロジェクト」が進められており、三重大学生物資源学部、工学部との研究上の繋がりもある。また、三重大学水産実験施設も湾内にあり、研究を重ねてきている。

志摩観光ホテルと鉄制限食に取り組む

本年3月、新たな取り組みとして「美味しいC型肝炎治療食の旅 グルメディカルツアー」が、志摩観光ホテルで行われた。これは「鉄制限食」に理解を得ることと、日頃鉄制限をされている方への「癒しのツアー」の意味を持つ。慶應大学から肝臓病専門医や栄養士も参加し、三重大学医学部内科 足立幸彦先生、垣内雅彦先生、附属病院

栄養指導管理室 岩田加壽子先生が中心となって行われた。また、本年10月29、30日にも同様にグルメディカルツアーを予定している。

医・食・癒しの空間を実現する

今回は、鳥羽市と志摩市での取り組みの一部を記した。地域連携活動として、地域の特徴を活かし地場産業である観光サービス業との連携を図ってきた。大学を交えた取り組みが産業活性への手段となるかどうかは何とも言えない。しかし、新しい付加価値の創出が刺激になり、より洗練された形となって進化していくことは、今後期待されることである。



昨年のウエルネスの旅

本年10月実施のグルメディカルツアー

四日市から文化の発信を

三重大学地域連携推進室四日市フロント
産学連携コーディネーター 相可友規

四日市フロント開設から2年半が経ち文化、教育、社会連携、産官学連携、産学連携と幅広く取り組んできた。とりわけ産学連携は最も力を入れコンビナート企業、地元中小企業との連携を深めている。産官学連携は三重県防災局、四日市消防本部との連携による防災への取り組みが具体的に進み出した。

三重大学教育学部は天津師範大学と協定を結んでいるが四日市市が天津市と25年前から友好都市の提携をしていることから、これらを融合しいろいろな企画をしたいと考えている。人材の育成はもとより文化の交流、産業の育成と取り組んでいく。

ところで今回の報告は、四日市市役所が主催する市民大学に本年度は生物資源学部が参加するので、その詳細を報告する。(平成16年度は医学部、平成17年度は教育学部が参加した。)

三重大学大学院生物資源学研究科企画運営

講座名：「三重の食～その素材と特色～」

場 所：四日市市文化会館第三ホール

時 間：午後6時半～午後8時半

- 第一回 平成18年9月1日「みえの米麦大豆“歴史と今”」
講師：三重大学大学院生物資源学研究科教授 松葉 捷也
- 第二回 平成18年9月8日「みえの肉“故郷と今”」
講師：三重大学大学院生物資源学研究科教授 後藤 正和
- 第三回 平成18年9月15日「みえの果実“蓮台寺ガキ・ウンシュウミカン・幸水ナシ：果実が甘くなる仕組み”」
講師：三重大学大学院生物資源学研究科教授 平塚 伸
- 第四回 平成18年9月22日「みえの魚介類“魚介類の生産を世界、日本、三重県から眺めて、そして世界の郷土料理、珍味、四季の魚、民話について”」
講師：三重大学大学院生物資源学研究科講師 岩城 俊昭
- 第五回 平成18年9月29日「みえの野菜“安全・安心な三重県産野菜栽培を目指して”」
講師：三重大学大学院生物資源学研究科教授 名田 和義
- 第六回 平成18年10月20日「みえの海藻“特色とその機能”」
講師：三重大学大学院生物資源学研究科教授 柿沼 誠

また、この市民大学には三重大学四日市フロントが企画した「21世紀ゼミナール」があり、年間を通して六回開催することになっている。このゼミは5年ほど前から渡邊副学長が主催してこられたものであるが、市民大学講座として新しくリニューアルオープンするものである。内容は下記の通り。

三重大学四日市フロント企画

講座名：21世紀ゼミナール

場 所：じばさん三重

時 間：午後6時～午後8時

- 第一回 平成18年7月19日「北勢地域におけるこれからの農業振興の行方」
講師：三重大学大学院生物資源学研究科教授 石田 正昭
- 第二回 平成18年9月21日「経済産業省(ものづくりエコデザイン・プラットホーム)構想」
- 第三回 平成18年10月23日「三重県北勢地域の産業集積と成長」
講師：三重大学人文学部講師 河上 哲
- 第四回 平成18年11月20日「画像診断の最近の話題」
講師：三重大学大学院医学系研究科教授 竹田 寛
- 第五回 平成19年1月24日「地域防災～安心、安全のために出来ることを考える」
講師：三重大学大学院工学研究科助教授 川口 淳
- 第六回 平成19年3月7日「最近の知的財産教育の動向」
講師：三重大学教育学部教授 松岡 守

◆ 研究室紹介 ◆

三重大学医学部看護学科 基礎看護学講座
教授 樋廻 博重 (栄養生化学)

研究課題

本研究室では、栄養学、生化学、生理学などを基礎に、以下のようなテーマで研究をしている。

アポトーシス (癌細胞の自殺プログラム) 誘導作用のある物質 (~) の発見

緑茶に含まれるエピガロカテキンガレート

カラフルポテトに含まれるアントシアニン

リンゴに含まれるプロシアニジン

香辛料ターメリックに含まれるターメロン

月桂樹の葉に含まれる 1, 8 - シネオール

カレー粉のフェヌグreekに含まれるプロトディオシン

木綿皮に含まれるルペオール

これら以外にスクリーニングをされたい植物 (薬草、ハーブ等) があれば、いつでも相談に応じ、それらの植物から成分分画してアポトーシス誘導能について調べる。

血液循環促進 (血液さらさら) 効果のある物質の特定

血管内を循環している血液の流れを観察・写真撮影

循環している血液の動画のデータ処理

血液さらさらの程度を数値化

血液循環促進効果のある有効成分の特定
どろどろ状態の血液で悪い血液循環の改善
上記の研究で会員企業との共同研究を大いに歓迎する。

連絡先: 059 - 231 - 5235 (直通)

< 技術指導 >

各種癌細胞の培養技術

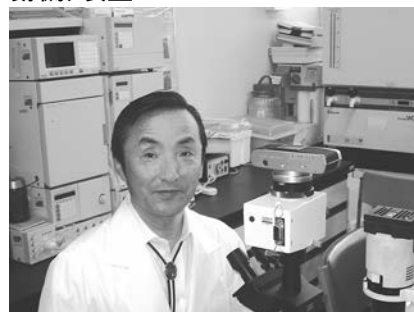
癌細胞からのDNAの抽出

DNAのアガロース電気泳動

血液循環促進 (血液さらさら) 効果の判定

< 設備・備品 >

クリーンベンチ・炭酸ガスインキュベータ・カメラ付き培養顕微鏡・超純水製造装置・超低温フリーザー・冷凍遠心器・液体クロマトグラフィー・血液循環撮影装置



樋廻 研究室

三重大学大学院工学研究科

分子素材工学専攻 分子設計化学講座

教授 伊藤敬人、助教授 久保雅敬

高分子設計化学研究室 (工学研究科分子素材工学専攻) は、高分子合成化学に関する教育・研究を行っている研究室です。

研究室は、伊藤敬人教授、久保雅敬助教授、宇野貴浩助手及び田村雅史技術員の4名のスタッフで構成されており、平成18年度は、大学院博士後期課程2名、同前期課程11名、学部学生(4年生)9名が在籍しています。

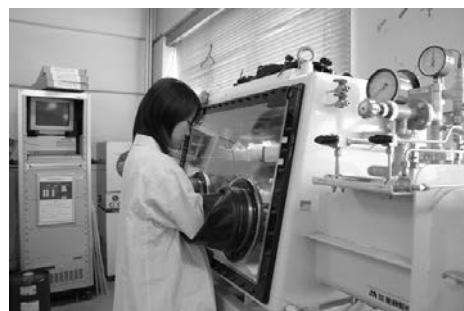
現在は、固相重合、高分岐ポリマーを用いる機能性材料の開発、不斉合成重合、トポロジカル架橋高分子の合成、有機/無機ハイブリッド蛍光体の合成などに関する研究を行っています。

平成17年度からスタートしている文部科学省の「伊勢湾岸都市エリア」産学官連携プロジェクトにも参画しており、「次世代全固体二次電池用高イオン導電性高分子固体電解質材料の開発」及び「有機/無機ハイブリッド型白色発光デバイスの開発」の研究テーマを担当しています。

写真で示しているのは、ドライボックスを使った実験風景です。空気中の酸素や水分を遮断するために、乾燥アルゴンガスが充填されている装置

内で不安定化合物を取り扱っています。このような装置を用いることで、リチウムイオン二次電池に用いる全固体高分子電解質の調製を行っています。全固体高分子電解質は、安全・軽量・高出力の特徴を兼ね備えているリチウムイオン電池の開発にとって重要なものです。

当研究室では、結晶化しにくく、低温領域において高いイオン導電を示す高分岐ポリマーに基づいた固体電解質を開発しています。また、実用的に興味深い新材料の開発ばかりでなく、化学物質が結晶状態のまま反応する固相重合反応、重合過程で高分子中に光学活性を生じる不斉合成重合、あるいは高共役キノイド化合物の特異的な重合反応の動力学解析など、高分子化学の基礎研究にも力を注いでいます。



◆ 会 員 企 業 紹 介 ◆



翠松堂製薬株式会社

〒510-0826
四日市市赤堀2-12-31
TEL: 059-353-5155
FAX: 059-353-2656
<http://www.suishodo.jp/>

当社は西暦1570年室町時代 元龜元年 関白二条家の直参製薬所「加藤延寿軒」としてその産声をあげ、以来商号を「加藤翠松堂」を経て、さらに「翠松堂製薬」と改め現在に至っています。その歴史は435年余りにおよび、現存する企業としては最古の製薬会社です。時代背景でいえば、まさに大河ドラマ「功名が辻」の時代、織田信長が天下統一に向けて邁進の頃ですから、その永い歴史は、私たち社員一同の誇りであります。

当社の看板商品は「百毒下し」という和漢生薬です。「百毒下し」は、徳川家茂の時代の將軍家侍医であり、その後初代陸軍軍医總監となった松本順男爵が、1892年（明治25年）に翠松堂に投宿したおりにその処方伝授したと伝えられています。「百毒下し」の名が示す通り、当時は万病に効果を発揮する解毒薬として全国津々浦々で販売されておりました。当時の資料には「治疾丸 百毒下し 梅毒瘡盛根治改良新薬 大日本伊勢国 翠松堂」との記録が残っています。現在では、最新の薬事法に合うように処方変更がされているものの、

当時解毒薬として中国から輸入されていたサンキライをいまだ成分として含むなど、処方上も当時の面影をしっかりと残しており、今尚多くの方々に愛され続ける医薬品となっています。

長い歴史を持つ当社ではありますが、2年前に化粧品の製造販売を中核に美容と健康関連で幅広く事業展開を行っているピアスグループ（本大阪市の一員となったことから、同グループがもつ化粧品開発のノウハウも生かした新しい製品作りにも取り組んでおります。デパート・総合スーパー・エステサロン・医科/歯科流通などピアスグループ各社が有するさまざまな流通に、当社の従来からの製品や新製品をご紹介します、より多くの方々にすばらしい製品を提供しようと考えております。

当社は、歴史と伝統を大切にしながらも、時代の変化に合わせ革新し続ける企業でありたいと願っております。今後も皆様に喜ばれる製品の開発と提供をすることで、いままで以上に社会に貢献する企業になることを目指してゆきます。



生川建設株式会社

〒510-0065
四日市市中浜田町1-10
TEL: 0593-55-2300
FAX: 0593-55-2305
<http://www.narukawa-kk.com/>

当社は、大正12年に生川組として創業し、昭和32年には生川建設株式会社に組織変更を行い創業83年を迎えました。その間、社員とともに移り変わる時代の要請に応えつつ建設業を通じて地域社会の発展と、福祉の増進に勤めてきました。

三重県に本社がある建設会社としては早くから県外（昭和36年に名古屋と大阪）に拠点を置き、県外での建設工事にも積極的に取り組んできました。特に高度経済成長にあわせて、物流が活発になるなか、西濃運輸(株)や飛騨運輸(株)のような運輸関係のトラックターミナルや倉庫の建設を得意分野とし関西方面から中部北陸及び関東方面まで積極的に工事を行って来ました。また、スーパーマーケットを中心に商業施設も早くから取り組み数多くの施工実績を残しております。

さらに、住友金属のシステム建築会に加盟し、低コスト、短工期、高品質で環境に配慮した建物である、「ティオ、ラフィット、トレオ等」を販売しております。

最近では住宅建設にも力をいれ、2005年旧本ビルを改装し、お客様に来ていただいて体感してもらいながら打合せができる住宅館をオープンしました。住宅では当社独自の企画住宅「An」を開発し販売しています。また、地震対策の観点から木耐協のフランチャイズに加盟し無料の耐震診

断を行うとともに、耐震補強工事も行っています。共同住宅では北海道仕様の高性能なヒーローマンシヨンのフランチャイズに加盟し、「高気密・高断熱・高防音」の快適住環境マンションを建設しています。

品質においては、お客様に満足していただける建物を建設するために2001年にISO9001の認証取得をうけ、営業から設計・施工、アフターメンテナンスに至るまで一連のプロセスを管理しながら継続的な改善に努め、お客様の満足向上を目指しております。

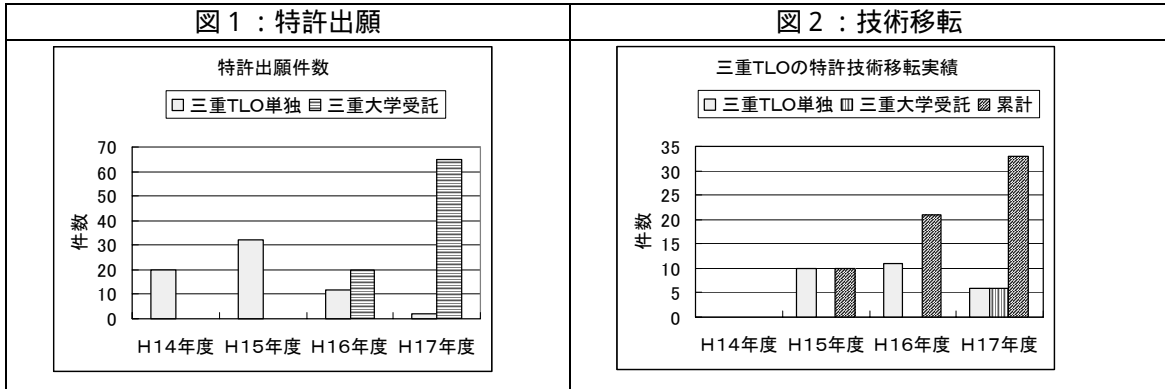
弊社は、社員一人一人が常に高い目標をもち、それにチャレンジする高い向上心を持つために社内研修にも力を入れています。そして、時代時代のニーズに応じた新しい建設業を追求し、社員一同皆様の信頼にお答えできるよう頑張っております。さらには、三重大学の技術と当社の施工実績から、新たな技術開発を共同で研究できるようにしたいと考えています。



三重TLOにおける技術移転および特許情報

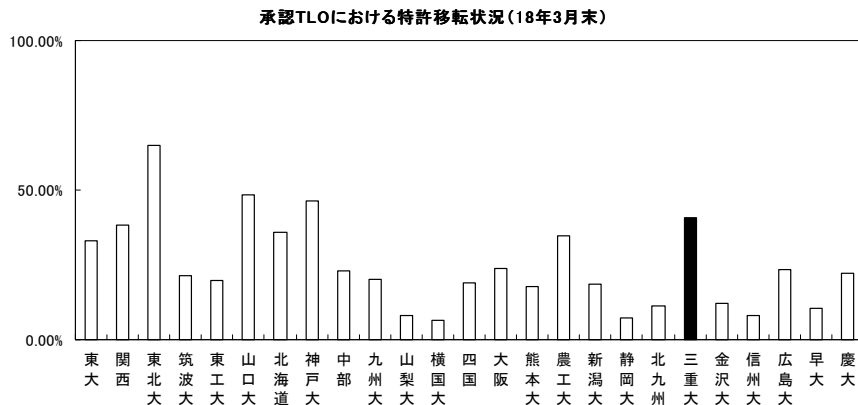
1. 三重TLOの特許出願及び技術移転件数

三重TLOがH14年4月に承認TLOとして認定されて4年が経過した。この間の特許出願及び特許技術の移転状況は下図のグラフに示すようにほぼ順調に推移し、特に技術移転については、初期計画より1～2年前倒しで進んでいる。なお、H16年度以降は、国立大学法人化に伴う特許権の機関帰属に伴い、三重大学からの受託となっており、技術移転はH17年度から動き出した。



次に、特許出願件数に対する技術移転数（オプション契約を含む）の比を、他大学のTLOと比較したグラフ（図3）が示すように、三重TLOは約40%と健闘しているといえる。なお、H16年度以降の大学から受託の技術移転については、殆どのTLOが未だこれからの状況にある。

図3：承認TLOにおける特許移転状況

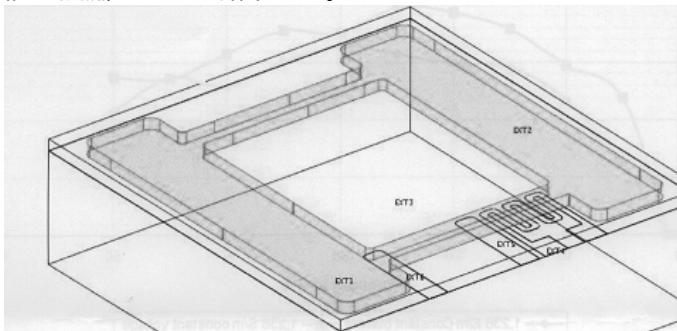


2. 最近の特許出願概要

前回報告後（H18.3/15～6/15）の特許出願数は13件（材料・機械系；5件、電子・情報系；3件、バイオ・食品系；5件）であったが、殆どが企業との共同出願であるため、技術概要については今回は省略する。

3. マイクロポンプ

三重TLOと特許の技術移転に関して提携しているPVA-MV（独）を通じて、ロストック大学(独)のマイクロポンプ技術についてオプション契約を締結した。マイクロポンプの用途は、下図に示すように医薬等精密化学品製造のためのマイクロリアクター等に有効に活用できる。本技術にご興味ある方は、下記の黒淵までご連絡下さい。



以上に関するお問い合わせは、下記までお願い致します。

(株)三重TLO 技術移転部長 黒淵達史
 e-mail; kurobuchi-ad@adp.jiii.or.jp
 Tel 059-231-9822, Fax 059-231-9743

第5期営業報告 (自 2005年4月1日 至 2006年3月31日)

・ 営業の概況

事業につきましては、大学等の教員との研究成果に関する連携を深める中で、当年は、特許出願に向けてシーズの発掘に力を注ぎました。また、大学等の教員の研究成果を積極的に活用していただくために、企業を対象に登録会員制度を設け会員獲得に力を注ぎました。

当年度の収支につきましては、収入面は、会費収入が13,499,426円、共同研究収入が、9,557,145円、仲介手数料359,025円、ロイヤリティ収入3,782,906円、知財業務委託収入4,543,000円、技術指導料174,976円、合計売上高31,916,478円ありました。一方、助成金関係は、経済産業省補助金が17,698,370円、みえメディカル研究会が5,000,000円、フェローシップ事業が11,984,000円、医工連携ものづくりが4,522,752円、研究サロン(三重県)が840,536円、知的活性化が900,000円、合計40,945,658円となりました。

支出面は、販売費及び一般管理費が68,823,623円となり、税引き前当期損益は、4,094,475円となり、法人税等は1,662,900円支払い、当期末処分利益は3,096,594円となりました。

当社は、今後も引き続き大学等の教員、企業および関係諸団体と連携を図り、事業の発展に全力を傾注してまいり所存でございます。

・ 会社の概況 (2006年3月31日現在)

1. 主な事業

大学等における研究成果の産業界への移転に関する事業

2. TLO承認

2002年4月16日文科科学大臣および通商産業大臣から「大学等における技術に関する研究成果の民間事業者への移転の促進に関する法律」第4条に基づく承認を受けました。

3. 株式の状況

発行する株式総数800株、発行済株式総数300株、株主数190名、株式預り27株8名

4. 主な事業所 津市

5. 従業員の状況 7名

6. 取締役および監査役

氏名	地位	氏名	地位
徳田 正孝	代表取締役	岡本 一朗	取締役
矢谷 隆一	取締役会長	村上 一仁	取締役
森野 捷輔	取締役副会長	渡邊 明	取締役
妹尾 允史	取締役	池田 茂	監査役
菅原 庸	取締役	知切 四書	監査役
円城寺英夫	取締役		

損益決算書

(自2005年4月1日 至2006年3月31日)(単位:円)

経常損益の部

【営業損益の部】

【営業収益】

【売上高】

売上高	13,499,426
共同研究収入	9,557,145
仲介手数料	359,025
ロイヤリティ収入	3,782,906
知財業務委託収入	4,543,000
技術指導料	174,976
売上高合計	31,916,478

【営業費用】

売上総利益	31,916,478
【販売費及び一般管理費】	
販売費及び一般管理費合計	68,823,623
営業利益(損失)	36,907,145

【営業外損益の部】

【営業外収益】

受取利息	123
------	-----

雑収入 55,839

助成金 40,945,658

営業外収益合計 41,001,620

経常利益(損失) 4,094,475

税引前当期純利益(損失) 4,094,475

法人税等 1,662,900

当期純利益(損失) 2,431,575

前期繰越損益 665,019

当期末処分利益(損失) 3,096,594

(注) 1株当たり当期純利益 8,105円25銭

販売費及び一般管理費内訳書

(自2005年4月1日 至2006年3月31日)(単位:円)

役員報酬	600,000
給料手当	26,130,388
法定福利費	1,519,497
福利厚生費	93,191
広告宣伝費	1,228,308
交際費	28,572
会議費	1,033,045

旅費交通費	4,299,425
通信費	574,564
消耗品費	4,164,162
事務用消耗品費	9,705
水道光熱費	104,080
新聞図書費	158,454
諸会費	280,005
支払手数料	366,048
車輛費	154,184
保険料	9,700
研究開発費	200,000
減価償却費	596,452
租税公課	786,600
雑費	7,798,805
特許・調査費	12,527,448
特許・出願料	2,236,982
講演料	3,375,431
委託料	548,577
販売費及び一般管理費合計	<u>68,823,623</u>

工具器具備品	347,938
有形固定資産合計	543,731
2.無形固定資産	
電話加入権	66,000
無形固定資産合計	<u>66,000</u>
固定資産合計	<u>609,731</u>
資産の部合計	<u>38,164,506</u>

負債の部	
流動負債	
未払法人税等	834,900
未払消費税	1,242,100
未払費用	5,705,507
預り金	5,285,340
仮受消費税	65
流動負債合計	<u>13,067,912</u>
負債の部合計	13,067,912

資本の部	
資本金	
資本金	15,000,000
資本金合計	15,000,000
利益剰余金	
利益準備金	2,000,000
別途積立金	5,000,000
当期末処分利益	3,096,594
(うち当期純利益)	<u>2,431,575</u>
利益剰余金合計	<u>10,096,594</u>
資本の部合計	<u>25,096,594</u>
負債・資本合計	<u>38,164,506</u>

貸借対照表(2006年3月31日現在)

資産の部	
流動資産	
現金・預金	7,449,620
未収入金	30,105,135
仮払金	20
流動資産合計	<u>37,554,775</u>
固定資産	
1.有形固定資産	
建物付属設備	195,793

◆◆◆ 催し物行事案内 ◆◆◆

「リーディング産業展みえ2006」

日時:平成18年11月10日(金)10:00~17:00
11月11日(土)10:00~16:00

場所:四日市ドーム
四日市市大字羽津甲5169(霞ヶ浦緑地内)
Tel:0593-30-3131 Fax:0593-30-3133

内容: 製品・技術の展覧会(三重をリードする産業などを一堂に展示する産業見本市) セミナー・講演会 出展企業によるプレゼンテーション 商談会 三重の産業紹介コーナー

*今回は産学官研究フォーラム・オン・キャンパスを同時開催しますので多数の参加を期待しています。

問い合わせ先:
リーディング産業展みえ実行委員会事務局
〒514-8570 津市広明町13
三重県農水商工部 農水商工企画室
事務担当:企画グループ 矢野、阪
Tel:059-224-2512 Fax:059-224-2521

「知的財産活用・流通セミナー」

昨年に引き続き県内5ヶ所(津市・鈴鹿市・伊賀市・鳥羽市・尾鷲市)でセミナーを開催します。日程は下記の通りですが、9月から順次セミナーを開催するほか「リーディング産業展みえ2006」にもブースを設ける予定です。

日時 会場
9月20日(水)13:00~ 伊賀市 ウェルサンピア伊賀
9月21日(木)13:00~ 津市 津商工会議所
9月27日(水)13:00~ 鳥羽市 鳥羽商工会議所
*鈴鹿市および尾鷲市は未定

問い合わせ先:
百五経済研究所 中畑・梶本 Tel:059-228-9105
三重TLO 原 Tel:059-231-9822

三重TLO

〒514-8507 三重県津市栗真町屋町 1577
三重大学創造開発研究センター内
TEL : 059-231-9822 (059-231-9763)
Fax : 059-231-9829
E-mail : mie-tlo@zvtv.ne.jp
http : //www.mie-tlo.co.jp